



北林 元保さん
ふじみ野西在住

ふじみ福祉フォーラム21実行委員会委員長

安心して暮らせる街をめざして

高齢社会の到来とともに、少子化・核家族化などが急速に進行し、地域社会や家族の様相は大きく変容し、今まで以上に地域福祉の展開にマンパワーが求められています。

このような背景のもと、平成4年6月に「ふじみ福祉フォーラム21」が発足しました。今日まで22年間、市民自ら福祉の理解と社会参加を促進していくことを目的に活動を続けています。

私は平成11年からこの活動に関わるようになりました。福祉フォーラムのメインテーマである「安心して暮らせる街をめざして」をモットーに、さまざまな思いや課

題を持ち寄って、テーマの中に取り入れながら活動してきました。

中でも、印象に残っているのは、市の地域福祉計画の策定に携わったことです。平成16年から5年間、「地域福祉計画とは：」から始まった市と市民が一体となった協働の活動は忘れられないひとコマでした。また、市内バリアフリー点検活動では、健常者だけではなく、障がいのある方の参加を得て活発な意見をいただき、成果を上げてきました。盲導犬との市内点検、車いすや白杖体験など、実態に沿ったバリアフリー体験をするなど、積極的に活動しました。

私は現在、福祉フォーラムの実行委員長を務めて10年になります。ここまでこれたのは、歴代の実行委員のご尽力とご協力によるものと深く感謝しています。

これからも、安心して暮らせる街をめざして、市民の皆さんと一緒に活動していきたいと思えます。



歴史・史・探・訪

ふじみ・発見!

29

市内の発掘調査③

【松ノ木遺跡 第46地点】

松ノ木遺跡は西みずほ台1丁目・3丁目にかけて広がる遺跡で、みずほ台駅の西側、みずほ台コミュニティセンターからみずほ台団地周辺にかけて位置しています。遺跡の立地する地形はほぼ平坦ですが、遺跡の西側に流れる富士見江川の支流である唐沢堀に向かって緩やかに傾斜しています。過去に49か所の地点で旧石器時代の石器集中、縄文時代中期の住居跡、土坑、被熱した礫が敷き詰められた集石土坑(蒸し焼きや、石焼調理などを行った施設)などが確認されています。

今回紹介する第46地点は、平成25年4月5月に発掘調査を行いました。確認できた遺構は縄文時代中期(約5千年前)の住居跡1軒のみでしたが、そこから多量の土器・石器が出土しました。土器は住居跡内にたい積した地層の上の



住居跡から出土した縄文土器

方から、少なくとも10個体以上が出土しており、下の地層(住居跡の床面付近)からは、わずかな土器しか出土していません。これはこの住居が使用されなくなつてしばらく経過後から、松ノ木遺跡の集落のゴミ捨て場として、壊れて使えなくなった土器を廃棄していったと考えられます。出土した土器の中には、赤く染められたこん跡のあるものや、蛇を模した装飾が付けられているものも確認できました。これから整理作業を進めていく中で、どのような資料が確認されていくか期待が高まります。また発掘調査中、関沢小学校の6年生も見学を訪れ、学校近くの地中から発見された縄文土器や石器にじかに触れ、驚いているようでした。

問合せ/生涯学習課 ☎049-256-7023



発掘調査風景



見学を訪れた小学生